

## 平成 29 年度おかやま創生総合戦略推進有識者会議における主な意見

### 【対策 1 若い世代の希望をかなえる少子化対策の推進（自然減対策）】

- ・女性が働く上で、職場環境における保育の問題は重要であり、パートナーや家族の協力体制も影響が大きく重要である。
- ・日常的に悩みを話し合う場所があるだけですごくポジティブになれるため、子育て拠点の環境整備が重要である。
- ・女性においても子育てに対する性別意識が強く、男性や家族の育児参加は自分が育児を満足にできていないとの考えにつながる現実もあるため、みんなで子育てを行うことが、母親の育児能力の低さにはつながらないという意識改革が必要である。
- ・「おかやま子育て応援宣言企業」登録の取組とイクボスの取組を連携させることで、より良い効果が得られるのではないかと。
- ・職場における子育て環境の改善は、直属の上司が応援しないと前進しない。
- ・縁むすびネットの登録に向けて県南は便利だが、県北は不十分なため、特設会場を設置するなど、市町村と連携していただきたい。
- ・出会いのための環境づくりについては、男女の出会いが少ないのが実態であり、行政として出会いの提供は可能であるため、取組は非常に評価できる。
- ・晩婚化対策については、女性の生活力が向上して自由に暮らせている楽しみ以上に、結婚がいいものだというイメージ戦略が大切である。

### 【対策 2 人を呼び込む魅力ある郷土岡山づくりの推進（社会減対策）】

- ・若者還流において、県内企業 PR といったイメージ戦略は非常に重要である。もっと、見て・聞いて・体感するという機会の提供が必要である。
- ・もっと女性が活躍できる職場があると思うので、創業を含め幅広くとらえ、県の施策としてアピールしてはどうか。

- ・岡山県は県人会が活発なので、県外の就職説明会などで、もっと連携を深めて実施してはどうか。
- ・外国人留学生の就職支援に取り組んでみてはどうか。
- ・移住については全国で競い合っているため、岡山に移住する要因を調査して、市町村と連携しながら、イメージ戦略や知恵を絞って取り組まなければならない。
- ・ネットを活用した情報発信で生の声を伝えていく取組も必要である。
- ・県内の移住施策における成功と失敗の事例をまとめ上げ、情報共有してはどうか。
- ・既に地域に存在している生業を引き継ぎつつ、移住者ならではの新たな視点で活性化していく「継業」などに取り組み、移住者の仕事面を支援してはどうか。

#### **【全般】**

- ・事務事業評価において、成果・課題の文章と総合評価点に整合性がとれていないものがある。
- ・重要業績評価指標（KPI）は、既に達成済みのものや目標とかけ離れているものが存在しているため、見直しを行ってはどうか。